

答 辞

歴史上稀に見る大惨事、東北関東大震災、発生から十日が経とうとしています。自然の猛威の前では、人間の無力さを痛感させられ、犠牲になられ被災された多くの皆様のことを思うと、心落ち着かない毎日です。このような中で、今日ここに卒業証書授与式を無事迎えることができたことは、卒業生一同、感謝の念に耐えられません。

「生涯現役」という言葉に魅せられて、自分の好きな道をどこまでも追求していきたい、その願いを実現するために学院に入学してから今日まで、あまりにも時の流れが早く感じた二年間でした。

入学当初は、真新しい実習服と長靴を履いて、穴掘りやいぼ結び・うのくび結びなどの縄結びの練習に明け暮れました。先生からそれぞれの指導を受けて、何度も練習し、今では、樹木の根巻き、冬の雪囲い・雪吊りが見事にできるようになったことは、大きな進歩であり、喜びでもあります。

また、座学においても、庭園史や文化史、庭園材料、庭園計画等の理論は、進級製作や卒業製作モデル庭園の設計製図に必要な基礎知識であり、ものごとを観る視野を拡げ、自らの価値を表現する手段として欠くことのできないカリキュラムでした。

京都の名園を巡る研修旅行では、新たな発見や出会いをもたらし、懇親会では、夜遅くまで庭談義をして互いの交流を深めたことが、庭造りの意欲へと繋がりました。

環境職藝科では、毎年、造園会社へ赴いての校外工房実習や、一般家庭の剪定、雪囲い・雪吊りなどの実習があります。

一般家庭にはご高齢の方も多く、その庭は、ご家族の移り変わりと共に歩み続けている想い出深い庭であります。その大切な庭の管理に、技術が至らない私達が関わります。ですから、さぞや覚悟がいることであつたと思ひます。それでも、どのご家庭も快く迎えていただき、温かく見守つて下さいました。

プロの庭師から見れば、さんざんな結果であつたに違ひありませんが、私達は、掃除と後片付けだけは念入りに行うことを心がけました。縄くずが落ちていないか、葉や枝が引つかかかっていないか、また、踏み荒らしたところがないかと気を配ることが、せめてもの誠意ある姿勢だと考えて取り組みました。

このように、未熟な私たちを支えて下さつた地域の皆様、そして、辛抱強くご指導いただいた先生方に、この場を借りて心より感謝申し上げます。今後は、この二年間で学んでことを糧に、一層の精進を重ねて参ります。これからも引き続き、温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご列席のご来賓各位、並びに諸先生方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。すと共に、職藝学院の益々のご発展を祈念申し上げます、答辞といたします。

平成二十三年三月二十日

職藝学院 環境職藝科

卒業生代表

新山 善一